

## 多職種連携で行う事例検討

**Aさん（42歳女性）**

**病名：**胃がん術後再発、肝転移

**家族構成：**45歳のご主人、9歳（長男）、6歳（長女）の4人暮らし。

**病歴：**

2年前に健康診断で貧血と診断。精査の結果、進行胃癌と診断されました。手術を受け、抗癌剤治療を受けていましたが、1年後には肝臓に転移が見つかりました。今年になり腹水が貯留するようになり、担当医師からは、これ以上の積極的な治療が難しいと伝えられました。

ある日Aさんは、次のような話をしました。

今までは、本当に幸せな人生でした。私が育った田舎では、何1つ不自由ない生活を、共稼ぎしていた両親のもとではありましたが、送っていました。高校を卒業して上京し、大学を卒業して、就職しました。主人と出会い、子ども達が生まれて、本当に幸せでした。

今から2年前に健康診断で貧血が見つかり、気づくと入院して手術と言われました。なんで、私がこんな目にあうのかなんて、何度も思いました。

それでも、子ども達の前では良い母親でいたいと思って。弱い姿は見せたくない思いで治療を続けて来ました。主人も優しく、買い物を手伝ってくれたり、掃除やゴミ出しなども担当してくれたり、こんなに優しい人だなんて、はじめて知りました。

今回、体調が悪くて入院したら、もう治療がないと言われました。これからどうなるのか不安でしたが、やはり、私、家に帰りたい。主人や子ども達と一緒に過ごしたいと思うからです。

できたら、今のまま、痛み少なく過ごしたい。母親らしいこと、あまりできないけれど、子ども達においしい料理をつくってあげたい。

できたらもう1回、中学・高校時代の同級生に会いたい。みんなどうしているのかな。田舎を離れて24年になるけれど、部活の帰りに立ち寄った公園にも行ってみたい。

子ども達には、勉強も大切だけれど、まずは健康でいてほしい。だから今習っているスポーツは、続けてほしい。試合で活躍するところ、たとえ私が向こうに逝っても、必ず大きな声で応援するから。

私は、主人のお母さんが65歳で、末期癌で、自宅で亡くなったときに、介護のお手伝いをしていたから、知っているけれど、一番大変なことは下のお世話だね。みんなに迷惑かけたくないけれど、こればかりは仕方がないかと思う。でも、そうなったら、腕の良い介護の皆さんにお願いするしかない、もう心では決めています。

私の人生で一番の学びは、人はいつも学び続けることを、この病気から教わりました。いくつになっても、新しい発見があります。病気になってこんなに多くの人達が、あたたかい手を差し伸べてくれる。だから、子ども達にも、ずっと生涯かけて、学び続けることを伝えたいです。

Aさんは、ご主人や子ども達の待つ自宅に、笑顔で戻って行きました。